



## 宇部興産株式会社

2020 年度通期 連結決算説明 電話会議

2021 年 5 月 12 日

## イベント概要

---

[企業名]	宇部興産株式会社
[企業 ID]	4208
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2020 年度通期連結決算説明 電話会議
[決算期]	2020 年度 通期
[日程]	2021 年 5 月 12 日
[ページ数]	34
[時間]	18:00 – 19:01 (合計：61 分、登壇：39 分、質疑応答：22 分)
[開催場所]	電話会議
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 取締役 常務執行役員 CFO 藤井 正幸 (以下、藤井)

## 登壇

---

**司会：**投資家の皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、宇部興産株式会社の電話会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

これより、取締役常務執行役員 CFO、藤井正幸より、2020 年度中期連結決算について約 30 分間ご説明申し上げたあと、質疑応答を行います。会議全体の時間は 60 分に予定しております。

電話会議を始めます前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明におきまして、現時点での予想にもとづく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全て、リスクならびに不確実性を伴っています。皆様には、実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

それでは、決算説明を開始いたします。藤井常務、よろしくお願いいたします。

**藤井：**皆さん、こんばんは。宇部興産の藤井でございます。本日はお忙しいところご参加いただきまして、ありがとうございます。

では、早速ですけれども、本日発表いたしました 2020 年度の連結決算の概要と、2021 年度の連結決算の業績予想につきまして、資料に沿ってご説明をいたします。よろしくお願いいたします。

## 連結対象会社

項目	2019年度末 (A)	2020年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	69社	66社	△3社	+ Premium Composite Technology North America, Inc. - U-MHIプラテック株式会社 - U-MHI PLATECH AMERICA, INC. - 安逸達電解液技術（張家港）有限公司 - 宇部アンモニア工業有限会社
持分法 適用会社数	26社	26社	0社	+ MUアイオニックソリューションズ株式会社 + 中塩安徽紅四方宇部新材料科技有限公司 - 常熟宇菱電池材料有限公司 - 京セラ宇部RFテック株式会社
計	95社	92社	△3社	

3

資料の右下にページ番号が振ってございます。最初に3ページのスライドになります。連結対象会社について、連結子会社数が終わった期は66社ということで、前の期に比べますと3社ほど減っております。

右に摘要がございましたように、1社増4社減ということでございます。増加したPremium Composite Technology、こちらは北米のコンパウンドの会社を買収いたしました。

それから、減少した会社でございますけれども、U-MHIプラテックとPLATECH AMERICA、これらは射出成形機の事業でございますけれども、宇部興産機械に統合いたしましたので連結から外れております。

その下、安逸達電解液技術（張家港）、これは中国の電解液の事業会社でございますけれども、もともと当社が行っていた会社です。今現在は、電解液の事業につきましては、三菱ケミカルさんとの合併体制に移っております。この以前やっていた会社の清算が終了したということで外れたものです。

それから最後、宇部アンモニア工業ですけれども、こちらは宇部興産本体のほうに吸収をいたしました。いずれも第3四半期までに異動したものでありまして、第4四半期の異動はございません。

続いて、持分法の適用会社です。終わった期は26社となり、会社の数としては変わっておりませんけれども、2社増、2社減というかたちになります。

増加しましたMUアイオニックソリューションズ、こちらも電解液の三菱ケミカルさんとの合併会社ということで、私どもはマイノリティの持分法の会社ということでございます。

その2つ下の外れたほうで、常熟宇菱電池材料がございまして。これはもともと三菱ケミカルさんと中国での電解液合併事業で行ってございました。この会社は、今回増えております新しい会社、MUアイオニックソリューションズの直接の子会社になるということで、当社の持分法からは外れるということでございます。

それから2つ目、もう1社増えたほうですけれども、中塩安徽紅四方。こちらは中国のファインケミカルの合併会社でございまして、営業運転を開始したというところです。

それから最後、京セラ宇部RFテック株式会社。誘電体セラミックスの会社、京セラさんとの合併で行ってございました。こちらにつきまして、全て京セラさんに譲渡したということで、持分法から外れたというところでございます。

これらの変動につきまして、連結の業績に特に大きな影響はございません。

## 2020年度 連結決算概要



### 環境要因

項目			2019年度 (A)	2020年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	108.7	106.1	△ 2.6	
資材価格	ナフサ	CIF	\$/ t	541	396	△ 145
		国産	円/KL	42,900	31,200	△ 11,700
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	666	500	△ 166
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	99.3	82.0	△ 17.3
			円/t	10,793	8,700	△ 2,093

続いて、4 ページの環境要因でございます。為替レートは終わった期が 106.1 円。ご案内のとおり、若干円高で推移をしたというところです。

それから、ナフサ、ベンゼン、石炭、こういった資材価格でございますけれども、いずれも前年度に比べますと、価格が下がった状況で推移をしたというところでございます。

## 2020年度 連結決算概要



### 主要項目

(単位：億円)

項目	2019年度 (A)	2020年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	6,678	6,138	△ 540	△ 8.1%
営業利益	340	259	△ 81	△ 23.9%
経常利益	357	232	△ 124	△ 34.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	229	229	△ 0	△ 0.2%

5

続いて、5 ページ、主要項目でございます。4 月の 23 日に、業績予想の修正発表をいたしております。この数値と基本的には変わっておりません。

2020 年度は、上期のコロナ影響ですとか、あるいは上期は化学でアンモニアの定修等の要因がございましたので、そういったことを含めて、通期では減収減益ということになりました。下期は需要の回復も進んでおります。ですから、下期だけ見ますと売上はわずかながらですが対前年度では増収、利益項目は下期だけ見ると増益というかたちではございますけれども、通期ではこういった減収減益というかたちになっております。

終わった期の売上高は 6,138 億円。対前年で 540 億円の減収。率にすると 8.1%の減収。

営業利益は 259 億円。前年度に比べて 81 億円の減益。23.9%の減益になります。

それから経常利益は 232 億円。対前年 124 億円の減益。34.8%の減益です。

親会社株主に帰属する当期純利益ですけれども、こちらは 229 億円ということで、差異としましてはほぼ前年並みというかたちになっております。

ここは後ほど出てまいりますけれども、繰延税金負債の一部取り崩し等により税金費用の減少がございました。そういう特殊要因がございましたので、経常利益のところまでは大きな減益になっておりますけれども、親会社株主に帰属する当期純利益のところでは前年並みになったというところがございます。

## 2020年度 連結決算概要



### セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント	2019年度 (A)	2020年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	化学	2,860	2,593	△ 266	△ 9.3%
	建設資材	3,030	2,828	△ 201	△ 6.7%
	機械	907	787	△ 120	△ 13.3%
	その他	45	31	△ 14	△ 31.9%
	調整額	△ 165	△ 101	63	-
	計	6,678	6,138	△ 540	△ 8.1%
営業利益	化学	145	81	△ 63	△ 43.7%
	建設資材	145	147	1	1.2%
	機械	49	28	△ 21	△ 42.7%
	その他	5	4	△ 1	△ 25.1%
	調整額	△ 6	△ 3	2	-
	計	340	259	△ 81	△ 23.9%

6

続いて 6 ページのスライドですけれども、セグメント別の売上高、営業利益の内訳をお示ししております。

売上高でございますけれども、先ほど上のほうで、全体としては対前年 540 億円の減収と申し上げました。ご覧いただきますように、化学、建設資材、機械の 3 セグメントとも減収ということになっております。

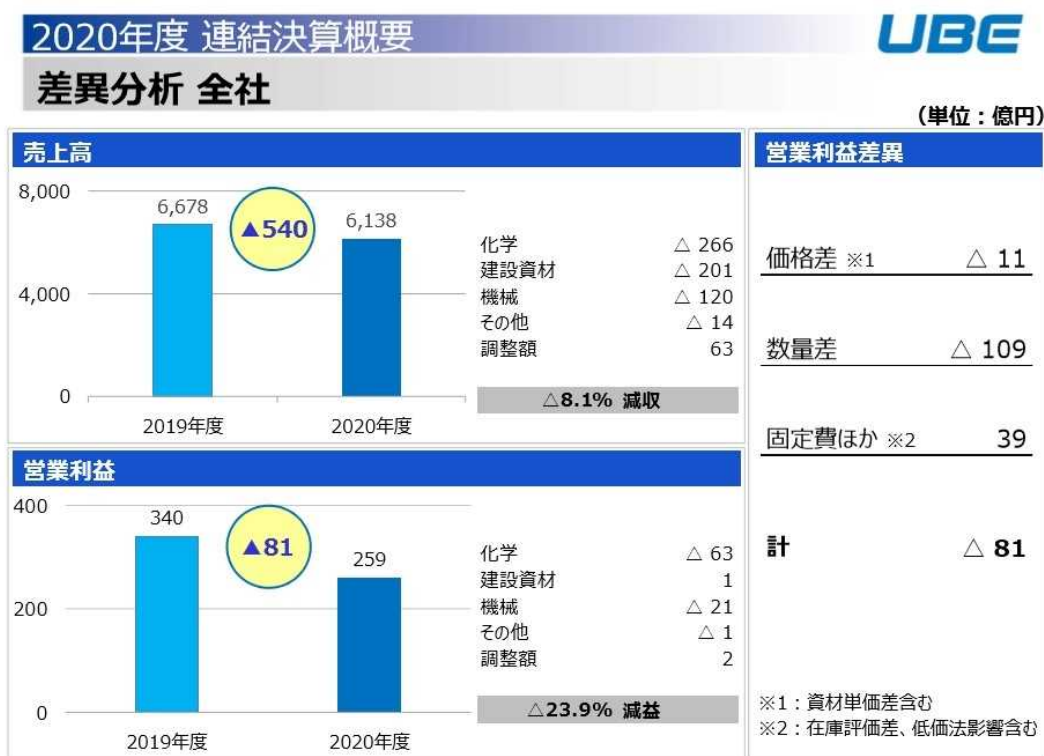
化学が 2,593 億円ということで、対前年 266 億円の減収。建設資材は 2,828 億円となり、同じく 201 億円の減収。機械は 787 億円となり、同じく 120 億円の減収ということでございます。

率をご覧くださいますと、建設資材は比較的新冠影響は限定的だったということで、減収幅が少し少なくなっているというところと、化学につきましては、下期に回復をしてくれているということで、以前よりも減収幅は少なくなっているといったところがございます。

それから下の段の営業利益でございますけれども、全体としまして81億円の減収です。その内訳ですけれども、化学で63億円の減益となっており、こちらはやはり新冠の影響等々が大きかったというところなんです。

続いて建設資材ですけれども、こちらは1億円、わずかながらではありますけれども増益というかたちになっております。

それから機械ですけれども、21億円の減益ということで、こちら新冠の影響を大きく受けたというところがございます。



7

続いて、7ページのスライド、差異分析の全社のところがございます。

左側の内訳につきましては、今お示したとおりでございます。



右側の営業利益の差異の内訳としまして、価格差としてマイナスの11億円。数量差として、マイナス109億円。固定費ほかでは、プラスの39億円ということでの81億円の減益ということになっております。

ご覧いただきますように、数量差のところが大きくマイナス要因になっているというところ、これが2020年度の特徴的なところでございます。



8

これからセグメント別のご説明をさせていただきます。まず8ページ、化学部門になります。

化学は、売上高266億円の減収ということでもございましたけれども、サブセグメントでご覧いただけます。4つのサブセグメント、それぞれ減収ではございます。影響の大きかったところは、ナイロン・ファイン、合成ゴムといったところです。ナイロン・ファインにつきましては、ナイロンラクタムはやはりコロナの影響等を受けて特に上期に需要が減退しており、その中で価格も大きく下がったということで、スプレッドが圧迫されております。

それから、工業薬品は定修中の年でございましたので数量減といったところ。ファインケミカルも、全般的にコロナの影響を受けて数量、価格ともに下がったといったところです。

それから合成ゴムは、99億円のマイナス要因になっております。こちら、主としてやはり価格の要因が大きかったというところがございます。これは、原料のブタジエンの価格の変動も含めてというところがございます。

機能品、医薬につきましては減収ではございますけれども、インパクトとして、ナイロン・ファインや合成ゴムほどは大きくはなかったというところではございます。

それから下の段の営業利益です。化学全体としては63億円の減益ということでございます。サブセグメントの内訳として、ナイロン・ファインのところでは58億円となっており、ここは一番大きな減益になったところがございます。売上のところでは申しましたように、ナイロンラクタムのスプレッドの圧縮、それからあと工業薬品の定修の影響。ファインケミカルの販売減の影響と、こういったところが減益につながっているところではございます。

それから合成ゴムでマイナスの22億円。こちらスプレッドが悪化したといったところではございます。

一方、機能品は11億円のプラスということになっております。ポリイミドが好調維持していたというところ、フィルムもそうですし、ワニスも堅調に推移したということで、トータルとして増益になっております。

それから医薬です。医薬は、自社医薬品、受託医薬品の出荷が前年に比べますと減っております。そういった影響で、減益になっているというところではございます。

価格差、数量差のところではございますが、価格差でマイナスの65億円となります。全般的に価格、下がっておるわけではございますけれども、ナイロンラクタムや合成ゴム、こういったところのスプレッドが圧縮されたといったところが大きな要因になっております。

数量差でマイナスの50億円でございます。こちらほとんどの製品について、やはり数量としては前年を下回っているというところがございます。ラクタムですとか合成ゴム、あるいはファインケミカル、それからあと、機能品関係も含めて、ほとんどの製品が数量差マイナスになっているというところではございます。

固定費ほかというところで、51億円のプラスが発生しております。アスタリスクの2というところで、下のほうに注書きがございます。在庫評価差、低価法を含むということではございますけれども、これらの影響によるプラス要因の34億円がこの中に含まれているというところではございます。そのほかに、固定費のほうは圧縮、変動等でプラス要因が出ているというところではございます。

## 差異分析 建設資材

(単位：億円)



9

続いて、9 ページ、建設資材です。建設資材は、売上 201 億円の減収ということになっております。右のサブセグメントをご覧くださいますと、減収幅が一番大きいのは石炭のところですが、石炭価格は下がっておりますし、数量的にも、前年に比べると少なくなったというところですが、

一方、セメント・生コンのところはプラスになっております。セメント・生コンは実際には内需が低迷しておりますし、売上としては減少要因なのでございますけれども、一部連結の子会社にて連結外であった子会社を吸収したといった再編の影響でプラス要因が出ております。そういったことでのプラスです。

それから建材・石灰石関連です。こちらは、主として宇部マテリアルズが行っております石灰石の製品が、需要減に伴いまして減収になっているといったところですが、

電力につきましても、電力価格絡みのところですが、石炭の価格が下がっており、こういった影響で電力価格も相対的には下がったといったところですが、

それから下の段、営業利益でございますけれども、1 億円ほど増益になっております。増益の要因について、セメント・生コンのところではプラスの 10 億円出ておりますけれども、こちらの要因は主として、石炭の価格が下がり、コストが下がったといったところのプラス要因です。

一方、建材・石灰石関連について、宇部マテリアルズの製品等は需要減で売上が下がっておりますし、利益のほうも減益になっております。

石炭も若干下がっております。価格が下がって、売上のほうは大きく下がっておりますけれども、損益影響のほうは比較的限定的ということです。

それから電力でございます。電力で20億円の増益です。IPPの定修がない年でございますし、冬場の電力価格が急騰いたしました。この影響で余剰電力の売電メリットが冬場に大きく出たというプラス要因がございます。こういった一過性の特殊要因も含めて、20億円のプラスが出たということ、トータルして1億円の増益になったということなんです。

右のほうの価格差、数量差をご覧くださいますと、価格差で52億円のプラスです。こちらは、石炭の価格が下がったことによるプラスや、電力の売電価格が冬場に上がったことによるプラスが主なところなんです。

それから数量差でマイナスの53億円です。こちらは、宇部マテリアルズの石灰石製品のマイナス要因が主なところになります。

固定費ほかでは、3億円のプラスということでトータル1億円のプラスということなんです。



10

続いて、10 ページのスライド、機械になります。機械は、120 億円の減収ということですが、やはりコロナの影響等を受けまして、特に自動車関係を中心にして、設備投資の案件が先送りになるといったような状況が発生しました。この影響で、特に成形機を主体として出荷の減少等による減収になっております。

営業利益のほうで、21 億円の減益です。こちら、売上の減収に伴う利益の減といったところで、特に成形機の関係で減益が大きかったといったところです。

右側の価格差、数量差についてです。価格差と数量差、この 2 項目につきましては、製鋼事業の件でございまして、下の固定費ほかのところに、機械そのものの限界利益の悪化分が含まれております。

米印の 2 にございますように、限界利益の悪化としては 25 億円ということで、そのあたり、コスト削減等に努めましたけれども、補い切れずという状況で、トータルとしまして 21 億円の減益に収まったと言いますか、終わったということでございます。

## 2020年度 連結決算概要



### 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2019年度 (A)	2020年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	340	259	△ 81
営業外損益	16	△ 26	△ 43
金融収支	4	0	△ 3
持分法による投資損益	23	11	△ 12
為替差損益	6	3	△ 3
その他	△ 17	△ 41	△ 23
経常利益	357	232	△ 124
特別損益	△ 53	△ 8	45
税金等調整前当期純利益	303	224	△ 79
法人税等・非支配株主利益	△ 73	5	78
親会社株主に帰属する当期純利益	229	229	△ 0
1 株当たり当期純利益	227.33円	226.79円	△ 0.54円

11

続いて、11 ページのスライド、営業外損益等々でございます。2020 年度の営業外損益としましてはマイナスの 26 億円ということで、前期に比べますと 43 億円ほど悪化をしております。内訳を

ご覧いただきますと、持分法投資損益ですけれども、こちらは持分法の会社につきましても、やはりコロナ等の影響を受けて業績が悪化したという影響がありました。

それから、その他のところで前年に比べると23億円ほど悪化しております。こちらは19年度に補助金収入等のプラス要因がございましたが、そういった特殊要因がこの終わった2020年度にはなかったということでの差でございます。

そういったところでの経常利益が232億円となります。それから特別損益のところですが、終わった期はマイナスの8億円ということで、前期に比べると45億円ほどプラスに働いております。これは、その前の年の2019年度にゴルフ場の事業譲渡を行いまして、これに関連する減損損失を計上しておりますので、そういった特殊要因があった19年度と比べると改善しているというところではあります。

それに加えて、電解液の合弁事業化といった再編に伴う持分変動利益のプラスの計上、こういったものが2020年度にはプラスとして発生している。こういったことで前年との差が大きく出ているという状況です。

といったことで、税金等調整前当期純利益が224億円。その下の法人税等・非支配株主利益で2020年度はプラスの5億円となっております。

先ほどもちょっと触れましたけれども、繰延税金負債の一部取り崩しを行いました。これはスペインとの租税条約が発効することが決まったためにこういった処理が発生したということですが、そういったものを含めて、税金費用のマイナスが大きくなり、税金等調整前の利益に比べて、親会社株主に帰属する当期純利益のほうが大きいというような、ちょっと特殊な現象となりました。

結果的に、前年と同じくらいの当期純利益になったというところでございます。

## 貸借対照表

(単位：億円)

項目		2019年度末 (A)	2020年度末 (B)	差異 (B) - (A)
資産	流動資産	3,039	3,317	277
	固定資産	4,231	4,378	146
	合計	7,272	7,697	424
負債	有利子負債	1,907	2,147	240
	その他負債	1,821	1,743	△ 77
	計	3,728	3,890	162
純資産	自己資本 *1	3,323	3,590	266
	非支配株主持分他	220	216	△ 4
	計	3,544	3,806	261
負債・純資産合計		7,272	7,697	424

\*1:「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

12

続いて、12 ページのスライド、バランスシートの項目になります。総資産 424 億円で、少し前年度末に比べると増加をしております。流動資産のところでは 277 億円の増加です。

一方、負債のほうの有利子負債が 240 億円増加して、有利子負債の残高が 2,147 億円となっております。

2020 年度、コロナの影響等、資金手当のところが不安要素もございましたので、手元の資金を厚めに確保するという事で、資金調達を早目に行ったということもございまして、こういったところで資産負債が少し膨れているという状況です。

それから、純資産のところの自己資本です。終わった期は 3,590 億円ということで、前期末に比べまして 266 億円ほど積み増したというところでございます。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

項目	2019年度	2020年度	
A.営業活動によるCF	684	660	税金等調整前当期純利益 224 減価償却費 363 運転資金の増減 147 法人税等の支払 △75 他
B.投資活動によるCF	△ 406	△ 394	有形・無形固定資産の取得 △382 他
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	278	266	
C.財務活動によるCF	△ 189	108	有利子負債の増減 203 配当金の支払 △93 他
D.現金及び現金同等物の増減 (含、換算差額等)	83	390	
E.現金及び現金同等物の当期末残高	406	796	

13

続いて、13 ページのスライド、キャッシュ・フローになります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2020 年度に 660 億円のプラス。

投資活動によるキャッシュ・フローは、キャッシュ・アウトが 394 億円のマイナス。

差し引きフリー・キャッシュ・フローが 266 億円ということでございます。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金を支払いました一方、有利子負債で借入を行っておりますので 108 億円のキャッシュ・インとなりました。合わせまして現金及び現金同等物の増減ですが、390 億円ほど増加しまして、期末の残高は 796 億円ということ終了しております。

以上が、終わりました 2020 年度連結決算の概要ということになります。

こうした決算の状況を受けまして、配当につきましては 1 株当たり 90 円の配当予想、据え置きにしております。中間期 45 円の配当を実施しておりますけれども、期末も 45 円を予定しているというところでございます。



合わせまして本日発表いたしましたけれども、100億円を上限とした自己株式の取得を行います。これは、明日から取得を始めます。10月の29日までの期間で行っていくという計画でございます。

## 2021年度 連結業績予想



### 連結対象会社

項目	2020年度末 (A)	2021年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘 要
連結 子会社数	66社	64社	△2社	+ UBEエラストマー株式会社 - UBE Advanced Materials INC. - Advanced Electrolyte Technologies LLC - 宇部興産開発株式会社
持分法 適用会社数	26社	27社	1社	+ C統合準備株式会社
計	92社	91社	△1社	

15

続いて、2021年度の連結の業績予想について、ポイントをご説明させていただきます。

15ページのスライドですけれども、連結の対象会社の異動ということでございます。連結の子会社数は、2社減りまして64社になるという計画でございます。

摘要のほう、右のほうに記載しております。増加する会社として、UBEエラストマー株式会社。こちら4月30日に開示いたしましたけれども、合成ゴム事業は生販技を一体として別会社化をして、意思決定を迅速化し、合わせて収益の改善、収益力の立て直しも行っていくということを計画しております。

減少するほうでございますけれども、UBE Advanced Materials と Advanced Electrolyte Technologies、これら2社につきましては、もともと電解液事業を当社がやっておりましたときに設立しました、持ち株会社でございます。傘下のAET等、こういった会社の整理がございましたので、この持ち株会社についても清算をまいります。

それからあと、宇部興産開発株式会社、こちらは既にリリース済みですけれども、ゴルフ場に隣接しておりましたホテルですとか、環境事業を行っていた会社です。こちらを解散するというところで、清算結了を計画しておるといところでございます。

それから持分法適用会社です。1社増の27社と見ております。摘要のほうに、C統合準備株式会社とございます。三菱マテリアルさんとのセメント事業等の統合に向けた準備会社を設立しております。今後、こちらが持分法ということで今期から入ってくるというところでございます。

いずれも、業績への大きな影響はございません。

## 2021年度 連結業績予想



### 環境要因

項目			2020年度 (A)	2021年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	106.1	103.0	△ 3.1	
資材 価格	ナフサ	CIF	\$/t	396	500	104
		国産	円/KL	31,200	37,800	6,600
	ベンゼン (ACP)		\$/t	500	600	100
	豪州炭 (CIF)		\$/t	82.0	107.8	25.8
			円/t	8,700	11,098	2,398

16

続いて、16ページのスライド、環境要因ということでございます。

為替レートは、前提としてはちょっと円高ですけれども、103円という前提。それから資材価格のナフサ、ベンゼン、豪州炭について、ここにお示ししているような前提を置いております。前年に比べると、いずれも価格は上昇という前提で計画を組んでいるというところでございます。

## 主要項目

(単位：億円)

項目	2020年度 (A)	2021年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高 *1	6,138	5,700 (6,500)	△ 438 (362)	- (5.9%)
営業利益	259	370	111	42.8%
経常利益	232	345	113	48.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	229	210	△ 19	△ 8.4%
項目	2020年度末 (A)	2021年度末 (B)	差異 (B) - (A)	
総資産	7,697	7,550	△ 147	
有利子負債	2,147	1,850	△ 297	
自己資本 *2	3,590	3,600	10	
年間配当金 (円/株) *3	90.00	90.00	0.00	

\*1: 2021年度連結業績予想は「収益認識に関する会計基準」等を適用した金額であるため、売上高の対前期増減率は記載しておりません。

( )は「収益認識会計基準」等の影響を考慮しない場合の参考値です。

\*2: 「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

\*3: 配当金…年間90.00円 (中間配当金45円、期末配当金45円)

17

続いて、17ページのスライド、主要項目でございます。全般的な考え方ですけれども、全体として需要回復は継続していく、そういう見方をしております。

この表の下のところに、アスタリスクの1ということで注記しておりますけれども、今年度から収益認識に関する会計基準の適用をしております。ですので、比較の対象として従来基準との比較を可能にするということで、売上高につきましては2段書きにしております。下の段の括弧で記載している、この数字がこの新しい会計基準の影響を考慮する前です。従来ベースでこういった数字になりますという、これは参考としてお示しをしているというところです。

売上高につきましては、新しい会計基準で5,700億円。従来基準ですと6,500億円ということで、数字そのものとしみますと減収のように見えますけれども、実質的には362億円の増収というところでございます。

それから、営業利益370億円ということで、前年に比べると111億円の増益を計画しております。

経常利益につきましては345億円。こちらも同じく、対前年で113億円の増益です。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、税金費用等の特殊要因が2020年度にございましたけれども、そういったものは特に予定しておりませんので、前年に比べると19億円の減益となります。

それから、その下がバランスシートの項目等々でございます。総資産は、若干減少を計画しております。これは先ほどご覧いただきましたように、手元資金を厚めにキープしておりましたけれども、状況等を見ながら、有利子負債の削減のほうも進めていこうという計画でございます。

自己資本ですけれども、3,600億円と期末に計画しております。これは自己株式の取得100億円を織り込んだうえで、というところでございます。

年間配当金につきましては、1株当たり90円。こちら、中間配当金として45円、期末の配当金で45円という、前年と同じ配当金の据え置きということを現状計画しているというところでございます。

## 2021年度 連結業績予想



### セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント	2020年度 (A)	2021年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	化学	2,593	2,800 *1 (2,900)	207 (307)	- (11.8%)
	建設資材	2,828	2,000 (2,700)	△ 828 (△ 128)	- (△ 4.5%)
	機械	787	950 (950)	163 (163)	- (20.7%)
	その他	31	30 (30)	△ 1 (△ 1)	- (△ 3.8%)
	調整額	△ 101	△ 80 (△ 80)	21 (21)	- -
	計	6,138	5,700 (6,500)	△ 438 (362)	- (5.9%)
営業利益	化学	81	205	124	150.5%
	建設資材	147	115	△ 32	△ 22.0%
	機械	28	50	22	76.6%
	その他	4	5	1	11.9%
	調整額	△ 3	△ 5	△ 2	-
	計	259	370	111	42.8%

\*1: ( )は「収益認識会計基準」等の影響を考慮しない場合の参考値です。

18

続いて、18ページ。セグメント別の売上高、営業利益の内訳になります。こちらの売上高のほうは、収益認識会計基準の影響を考慮しない場合について、下の段に括弧書きで参考値をお示しております。

化学ですけれども、今年度、新しい会計基準で2,800億円ということで、新会計基準でも増収ということになります。

それから建設資材は、新しい計算基準で2,000億円、従来基準で2,700億円です。従来基準でも減収ということを見込んでおります。会計基準の影響が一番大きいのはこのセグメントということで、特にセメント・生コンの関係の商社機能を持っていたところの売上高が新しい会計基準で目減りするところがございます。

機械につきましては950億円の計画ということで、163億円の増収を計画しているということです。

営業利益でございますけれども、化学、機械につきましては回復が堅調に計画されているということです。一方で建設資材につきましては、石炭価格が上昇するということでのコストアップ、それからIPPの定修等がございますので、そういったところでの減益が発生する見通しだということでございます。

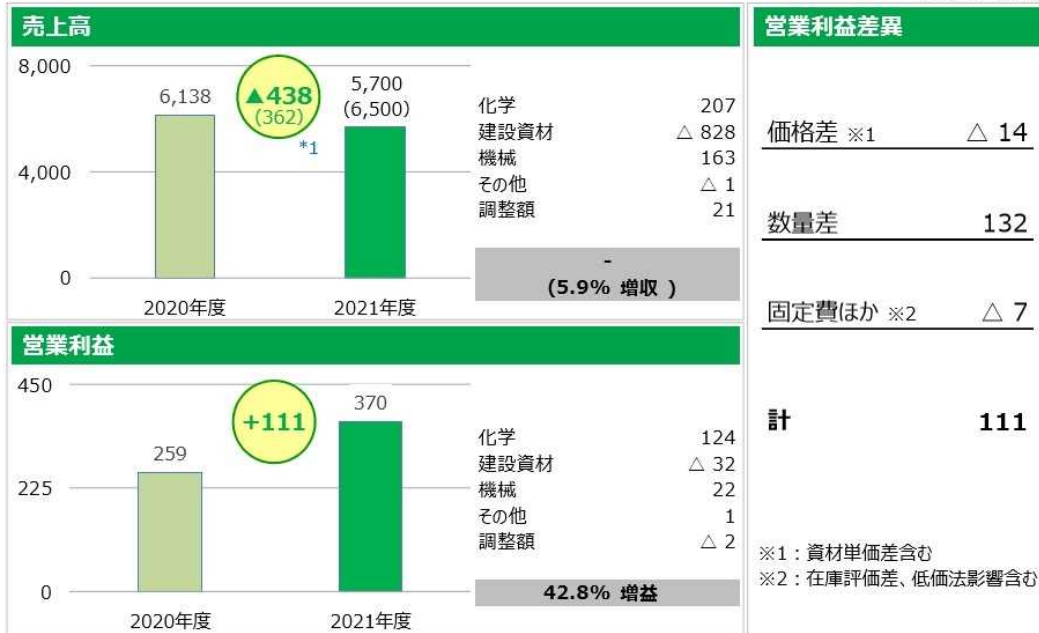
具体的な数字で申しますと化学は205億円ということで、前期に比べると124億円の増益を計画しているということです。それから建設資材は115億円、先ほど申しましたような減益要因で32億円の減益です。それから機械が50億円ということで22億円の増益を計画しているということです。

## 2021年度 連結業績予想



### 差異分析 全社

(単位：億円)



\*1: ( )は「収益認識会計基準」等の影響を考慮しない場合の参考値です。

19

19 ページのスライド、差異分析です。

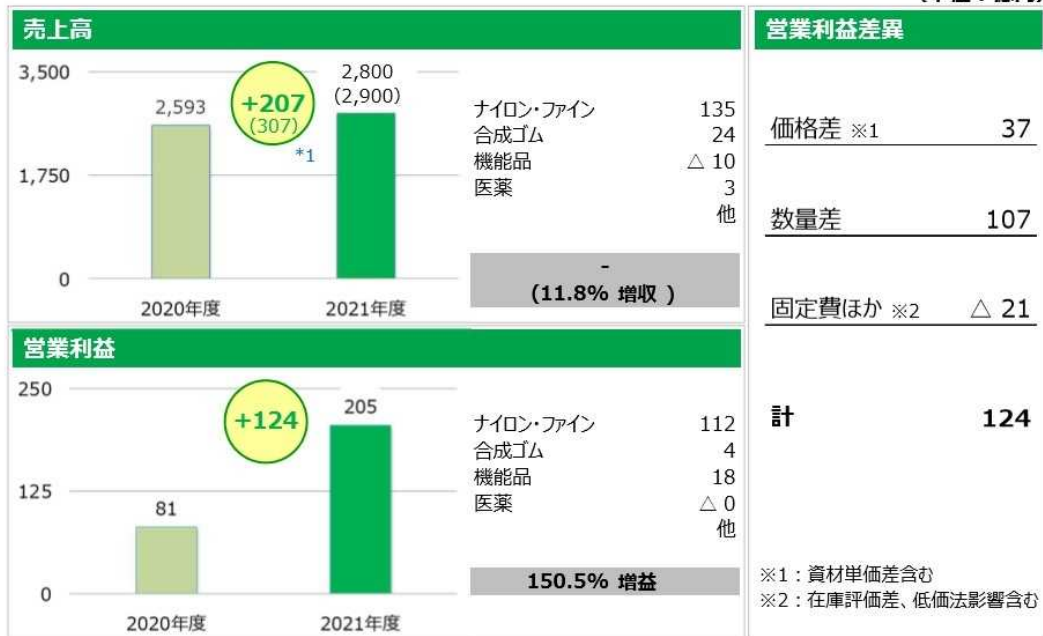
左側の内訳は、今ご覧いただいたとおりです。右側の価格、数量差等ですけれども、価格差としてはマイナスの14億円。数量差は、やはり数量の回復のところ、特に2020年度の上期に数量が落ち込みましたので、それに比べると、数量差としてプラス要因が大きく出てくるということで132億円。固定費ほかというところでは、7億円のマイナスということを見込んでいるところです。

## 2021年度 連結業績予想



### 差異分析 化学

(単位：億円)



\*1：( )は「収益認識会計基準」等の影響を考慮しない場合の参考値です。

20

セグメント別でご覧いただきますと、20ページのスライド、化学部門ですけれども、売上高は207億円の増収。従来基準でいくと307億円ということがございますけれども、内訳としては、ナイロン・ファインが大きく135億円の増収を見込んでいるというところでございます。ナイロンラクタム、こういったところは需要が回復しておりますし、市況も改善をしてくれているというところではあります。

工業薬品も、今年は定修がない年でございますので数量が増加します。それから、ファインケミカルも全般的にコロナからの回復が継続するという前提でのプラス要因です。合成ゴムにつきましても、こちら引き続き堅調な需要が見込まれるということで、特に対前年でプラスが出てきます。

それから、機能品ですけれども、機能品がマイナスの10億円ということで減収見通しになっております。これは、電解液の事業を三菱ケミカルさんと合併事業化いたしましたので、当社の連結の売上高からはこの分が外れているといった影響でのマイナスということがございます。これを除くところではプラスになっております。

医薬は若干の増収を見込んでいるというところではあります。

営業利益のほうでございますけれども、全体としては124億円の増益です。中で一番大きいのはナイロン・ファインのところで、112億円の増益を計画しているというところです。

売上のところでも申しましたけれども、ナイロンラクタムは需要回復をしておりますし、市況も改善し、スプレッドが回復をしてくている。こういったところ、今年度、比較的堅調な推移を続けるという見通しを前提としております。

合成ゴムにつきましても、若干4億円ほど改善のほうに向かうというところです。それから機能品ですけれども、18億円の増益を見込んでおりますが、全般的に需要が堅調に推移していく、ポリイミドも堅調な動きを想定しておりますし、それ以外の機能品の関係も回復が進んでくる、こういう前提で考えております。

医薬につきましては、営業利益面ではほぼ前年並みといったところです。

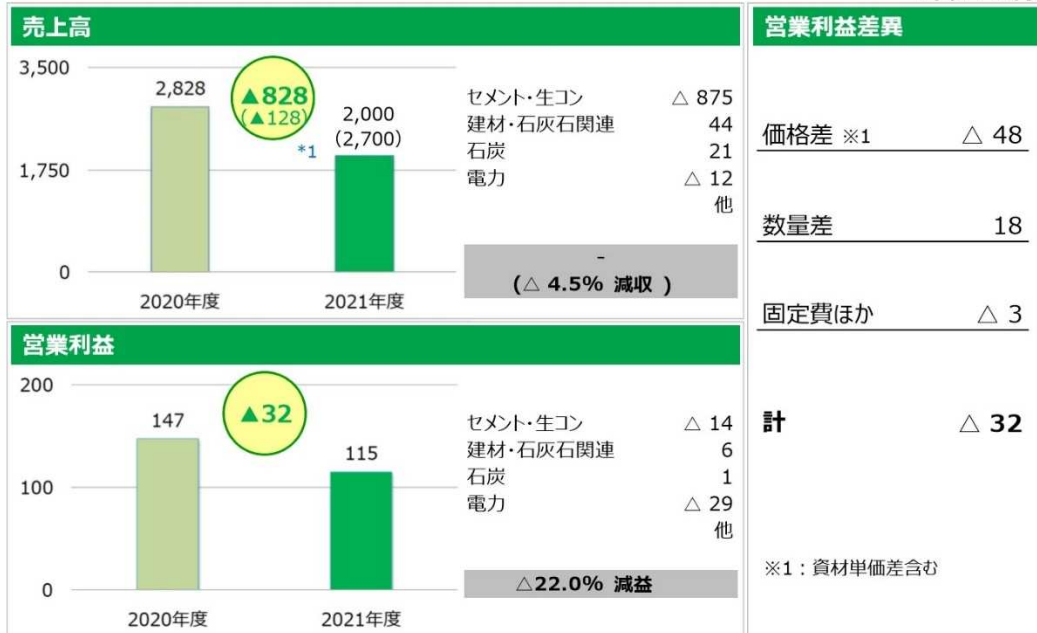
右のほう、価格差、数量差をご覧くださいますと、価格差でプラスの37億円となり、ナイロンラクタム等といったところの価格改善が進んでくる。それから数量差ですけれども、これは全般的にコロナからの回復ということで数量差プラスが出てくるというところです。

それからあと、固定費ほかで21億円のマイナスです。こちらは在庫評価差、それから低価法の影響により、マイナス11億円の影響を織り込んでいるというところでございます。



差異分析 建設資材

(単位：億円)



\*1: ( )は「収益認識会計基準」等の影響を考慮しない場合の参考値です。

続いて、建設資材でございますけれども。売上としては828億円のマイナスです。会計基準の影響が一番大きいところではございますけれども、それを除いたところで128億円の減収計画となっております。

セメント・生コンについて、こちらが会計基準の影響が一番大きく受けるところでございますけれども、それを差し引いても、それ以外のところで、セメントとしては伊佐工場の大規模定修を予定しておりますので、こういったところでの数量減があります。

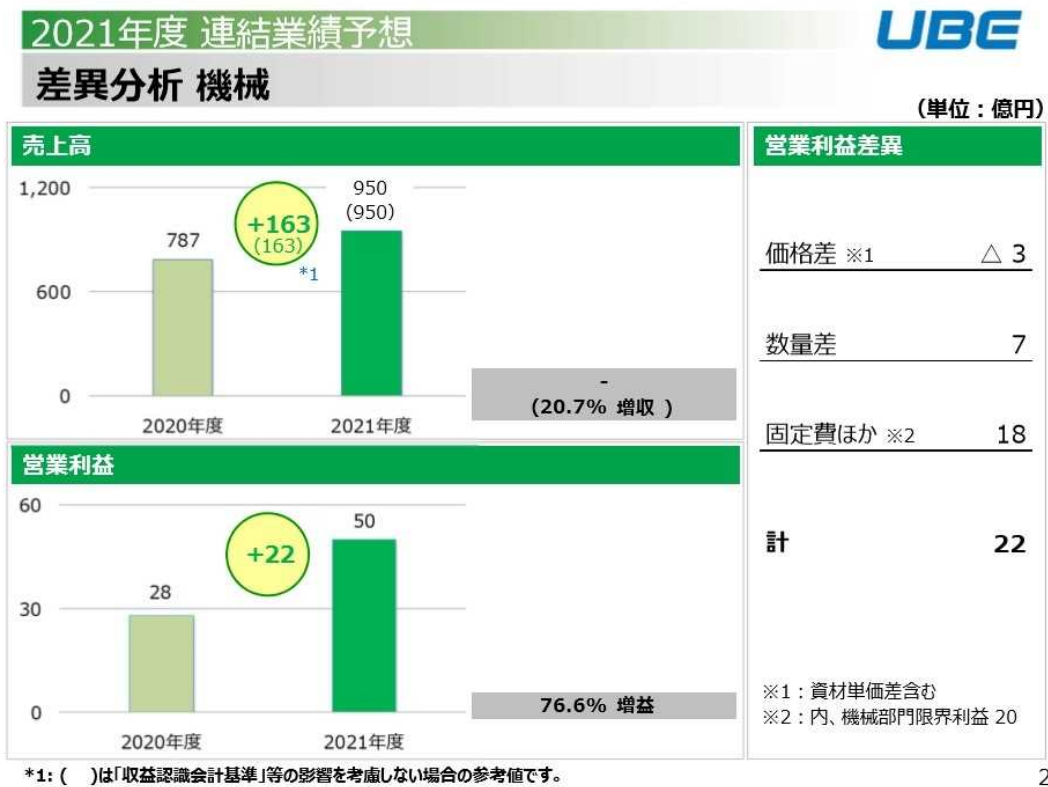
それからあと生コンですが、こちらは地域によっていろいろ差はあるところでございますけれども、それぞれの見通しから集計しますと、全般的にやや前年に比べると減少という見通しを見込んでいるところです。

それから建材・石灰石関連は宇部マテリアルズの製品は回復が継続してくるという見通しです。石炭は価格が上昇します。一方、電力につきましては売電量が減少するといったところです。それからあと、冬場の特殊要因であった価格要因も、今期はそういった計画はないということで減収という見通しです。

それから営業利益のほうですけれども、32億円の減益を見込んでおります。セメント・生コンについてこちらも石炭価格によるコストアップの影響が大きいところです。

電力のところでは29億円のマイナス要因となります。こちらも、IPPの定修があるということでの補修費等でのコストアップや、冬場の価格、売電価格といった部分が20年度のメリットが剥落するところです。それからあと、ベースとなる石炭コストが上昇するといったところにより、電力の減益要因が一番大きいというところがございます。

右のほうですけれども、価格差で48億円のマイナスですが、石炭の価格アップ、それから電力価格の減少というところです。それから数量差でプラスの18億円ですけれども、宇部材料ズの石灰石関連の製品の数量回復がしてくるというところです。固定費ほかでは、マイナスの3億円程度を見込んでおるというところがございます。



22

22 ページですけれども、機械になります。機械としては、163億円の増収、22億円の増益を見込んでおります。

自動車、環境を中心として、コロナの影響から回復が出てきているといったところです。その間、コストダウンですとか、リードタイムの短縮に取り組んでおりますので、需要の回復、出荷の回復

と合わせて、こういったところの成果の発現を行っていくということ。こういったところで増益を計画しています。

価格差、数量差は製鋼製品の部分であり、固定費のところ、下の注の2のところがございますが、限界利益として20億円の増益要因を計画しているところでございます。

## 2021年度 連結業績予想



### 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2020年度 (A)	2021年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	259	370	111
営業外損益	△ 26	△ 25	1
経常利益	232	345	113
特別損益	△ 8	△ 35	△ 27
税金等調整前当期純利益	224	310	86
法人税等・非支配株主利益	5	△ 100	△ 105
親会社株主に帰属する当期純利益	229	210	△ 19
1株当たり当期純利益 *1	226.79円	207.62円	△ 19.17円

\*1: 1株当たり当期純利益の算出に当たり、2021年5月12日開催の取締役会において決議しました自己株式取得については考慮していません。

23

23 ページのスライド、営業外損益等々です。営業外損益につきましては、この21年度はマイナスの25億円ということで、前年度並みの計画でございます。そのうえで経常利益が345億円です。

それから特別損益です。マイナスの35億円ということで、2020年度は電解液の再編等による利益のプラス要因がございましたけど、そういったものはなく、21年度は固定資産の処分損等、従来並みのベースを想定しているというところです。税金等調整前の当期純利益が310億円です。

それから、20年度にございました、税金費用等の特殊要因がなくなりますので、通常ベースの法人税等ということで、これを差し引いて親会社株主に帰属する当期純利益は210億円を計画しているというところでございます。

その後ろに参考資料等をおつけしておりますので、またこちらのほうはご覧いただければと思います。

私からのご説明は以上でございます。

## 質疑応答

---

**司会：**それでは、これから質疑応答に入ります。

これより、ご質問の仕方についてご説明いたします。ご質問の順番が来て司会者よりお名前を呼ばれましたら、会社名、お名前の後にご質問をお願いいたします。なお、ご質問につきましては一問一答形式でお願いいたします。また、多くの方からのご質問にお答えするために、お一人様1回につき2問まででよろしくお願いいたします。

それでは、質疑応答を開始いたします。

A証券株式会社、A様、ご質問をお願いいたします。

**A：**Aです。よろしくお願いいたします。化学で2点お願いします。

まず1点目ですが、27ページにクォーターごとの利益の推移が出ていますが、化学セグメントのサードクォーターからフォースクォーターにかけての利益の増加24億円は、サブセグメントで分けた場合に、どの事業の寄与が大きくなっているのでしょうか。

**藤井：**サードクォーターからフォースクォーターにかけての増益の主なところは、ナイロンと合成ゴムとポリイミドになります。ナイロンと合成ゴムはスプレッド改善が増益の理由で、ポリイミドは引続き堅調に推移しております。その他の製品は若干のプラスマイナスというところでは。

**A：**24億円増加になっていますけれど、今の三つは均等に寄与しているという考え方で正しいでしょうか。

**藤井：**そうですね。ほぼそういったかたちです。ナイロンと合成ゴムがよりちょっと大きめかもしれません。

**A：**それから2点目です。20ページを拝見していますが、トータルで化学セグメント124億円の増益ですが、右側の三つを足しますと134億円になりますので、その他がマイナス10億円になると思うのですが、これは何でしょうか。あとカプロラクタムとベンゼンのスプレッドの前提を教えてください。

**藤井：**まず、その他のところですが、こちらはセグメントを越えたところでの調整の部分とか、共通の部分のところが入ってまいりますので、ある意味、割り振りしきれていない部分の損益といったところがございます。

**A**：前年度から化学の本社費の分担が増えているとか、そういうことをおっしゃっていますか。

**藤井**：各社それぞれの出てきたものの積み上げになっておりますので、明確にこの要因でという大きな要因が特に何かある訳でもございませんけれども、そういう積み上がりの部分で発生しているというところがございます。

次に、スプレッドでございますけれども、2020年度のラクタムのスプレッドは、上期が平均で646ドル、下期が平均876ドルで、通期平均が761ドルでした。特に上期を中心にしてスプレッドが圧縮しましたが、下期にかけて回復が進んできて、今足元、3月以降は1,000ドルを超えている状況が続いております。

ちなみに2021年度、本年度の計画の前提は、通期平均して900ドルとしています。今の足元よりも少し落ち着いた水準を平均値として計画しております。

**A**：ありがとうございました。

**司会**：ありがとうございました。次に、B証券株式会社、B様、ご質問をお願いいたします。

**B**：B証券のBでございます。よろしくをお願いいたします。

一つ目です。23ページ、2021年度の営業外損益のところですが、昨年とほぼ同じということですが、電解液の合併会社はあまり寄与しないということなのか、入繰りがあるのか、ご確認をお願いします。

**藤井**：入繰りはもちろんです。マイナス要因としましては建設資材の統合準備の部分がございまして、こういったコストアップの部分が入っていることで、トータルすると前年度並みというところがございます。

**B**：持分法投資損益はどれぐらい増えるのでしょうか。そもそも終わった期が持分法の利益が圧迫されているので、それが戻ってプラスになると思っていたのですけれど。

**藤井**：持分法投資損益は改善しておりますけれども、新たに持分法適用会社として入ってきた統合の準備会社がマイナス要因になっていることで、トータルでは前年度並みとなっております。

**B**：準備会社も持分法なので、そこでコストが発生してしまうのですね。

**藤井**：はい、そういうことです。

**B**：よく分かりました。ありがとうございます。

二つ目をお願いします。化学の機能品が、終わった期も第4四半期に対前年同期比でかなり伸びていると思います。第3四半期累計で機能品のところがマイナス2億円でしたけれども、通期累計だとプラス10億円になっているので、去年の第4四半期が弱かったにせよ、第4四半期だけでプラス12億円あります。今期も伸びる計画ですけど、これはポリイミドということで良いのでしょうか、他も結構伸びているのでしょうか。また、第4四半期の状況が続くようなかたちで見ていらっしゃるのか、第4四半期よりは控えめに見ていらっしゃるのか、その辺についてお願いします。

**藤井：**ポリイミド以外の製品も、多少回復していますけれども、メインはポリイミドです。ポリイミドは、需要は堅調に推移しておりますが、上期に調整局面が出ましたのでその反動でのプラス要因が出たりとか、ポリイミドの中での構成差であったりとか、あるいは一部新年度の部分の前倒しであったりとか、いろいろな要因が重なり合って、第4四半期は伸びている部分はございます。ならしてみると、ポリイミドは堅調に伸びているとご理解いただければと思います。

**B：**終わった期の第4四半期は上期の反動があり、ちょっと出過ぎたけれども、ならしてみても今期は前期に対してさらに伸びると。下期と下期で比較してもフラットから伸びるぐらいはいけそうだと、そんな感じで見ていていいですか。

**藤井：**はい、ご理解の通りでございます。

**B：**ありがとうございます。

**司会：**ありがとうございました。次に、C証券株式会社、C様、ご質問をお願いいたします。

**C：**ありがとうございます。C証券のCです。よろしくをお願いいたします。

1問目ですが、私も機能品について教えてください。まず、ポリイミドとセパレータですが、終わった期の年間、可能であれば新年度の年間での伸び率がどんな感じで来ているのか教えてください。

できれば売上、難しければ数量のイメージとかで丸めていただいても構わないので、ぜひ教えてください。

**藤井：**ポリイミドにつきましては、終わった期の売上として2割強ぐらいの増加ですね。一方、セパレータにつきましては、上期にかなり需要が落ち込んだということがございますので、対前年ではマイナスになっております。

今期で見ますと、ポリイミドにつきましては率にすると前年の伸び方よりも少しマイルドになってくるという見方です。一方、セパレータは回復が進んでいきますので、こちらは19年度並みぐらいに戻るイメージです。

**C**：セパレータで今教えていただいたのは売上でしょうか。それとも数量のイメージでしょうか。

**藤井**：売上のイメージということでご理解いただければと思います。

**C**：ありがとうございます。

2 問目です。セパレータについて、終わった期はマイナスだったということで、第 3 クォーターぐらいのときに少し数量は戻って来たけれども、コーティングタイプとコーティングしていない無塗布のものと比べると、どちらかと言うと戻ってきたのが無塗布のタイプだったと認識しているのですが。それは一時的にそういう変化が起きてしまっていただけなのか、それともお客さんのほうでコスト削減をしたいということで、コーティングタイプよりも無塗布のほうを優先的に使うようになったのか。この辺りについてご解説をお願いいたします。

**藤井**：数量としましては無塗布のほうが増えました。終わった期は結局トータルで前の年と比べるとそうですけれども、比較対象になる 19 年度に中国向けの数量について、われわれもどちらかと言うと中国向け価格ありきのところはあまり重視しないということで、ここが 19 年度に減りましたので、その分の戻りがあって、前年に比較すると無塗布が増加したというところですよ。

例えば第 3 四半期から第 4 四半期にかけて申しますと、塗布型も無塗布型も数量としては伸びておりますし、今期につきましても塗布、無塗布ともに回復が続いていると見ております。

**C**：分かりました。安心しました。ありがとうございます。

**司会**：それでは、そろそろお時間近くになりましたので、次の方のご質問を最後とさせていただきます。D 証券株式会社、D 様、ご質問をお願いいたします。

**D**：D 証券の D です。お願いいたします。

私もしつこくて恐縮ですが、まずは機能品についてお伺いします。28 ページと 29 ページを拝見しますと、機能品が 3Q から 4Q にかけて 28 億円増収で 12 億円増益になっているかと思えます。セパレータも QoQ で伸びたというお話なのですが、特にこの利益の 12 億円の動きについて、ポリイミドが特に多くてセパレータが少し貢献したとか、そういった動きでいいのか。またセパレータに関しては堺の新ラインで償却費が増えたクォーターということでいいのか。この辺りを確認させてください。

**藤井**：すみません、もう一度確認ですけども、第 3 四半期から第 4 四半期にかけての動きということで、機能品のポリイミドであるとかセパレータであるとか、この辺の動きということでございますか。



**D**：はい。

**藤井**：まずポリイミドは堅調に推移しているというところで、売上も利益も伸びているという、この増加のところのプラス要因になっているところがございますけれども、先ほどもご質問が他の方からございましたように、構成差であるとか、時期ずれの影響等、こういったところの要因が重なって、少し多めにプラスが出ているというところもございます。

それから、セパレータにつきましては回復が進んできておりますけれども、第3四半期でだいぶ回復が進んできておりましたので、第3、第4四半期はおしなべて同水準ぐらいとなっております。

**D**：同水準の売上高ですか。

**藤井**：そうですね。全般的に同水準というところでご理解いただければと思います。

**D**：堺の商業運転は4Q頃に開始しているのかなと思ったのですが、償却費の増加は特に効いていないですか。

**藤井**：実際に営業運転が始まったのがもう4Qの後ろのほうでございますので、ファクターはそれほど大きくないですし、それを含めたところでトータル的に同水準ぐらいになっているというところがございます。

**D**：なるほど。同じように機能品を20年度から21年度に向けての動きで言いますと、売上高が10億円減収の一方で18億円の増益になっていて、売上高に関しては電解液が外れる影響が大きいと思うのですが、実態として機能品はどれぐらい増収になるのか。50億円ぐらいの電解液の影響があると思っていいのか。あと、その中身、ポリイミドがその半分ぐらいの増収を占めるのか、そういったイメージを教えてくださいませんか。

**藤井**：減収の要因としてはご理解の通り、電解液分のマイナスが入っておりますので、それを差し引けばその他ではプラスということで。

具体的な数字につきましては、特に電解液等はまだ合併事業化しておりますので、その辺りは差し控えたいと思いますけれども、利益の部分をご覧いただいて、それなりの売上の増加とご理解いただければと思います。

**D**：なるほど。増益要因としては特にポリイミドが大きいですか。

**藤井**：増益の要因としてはポリイミドもそうですけれども、その他の機能品につきましても、セパレータでありますとか、セラミックスや分離膜も今期は増益を計画しておりますので、そういったところのプラスが入っております。

**D**：分かりました。

最後に、建設資材事業について 21 ページを拝見しますと、今期のご前提が 4.5%減収になっていまして、先程来、宇部マテの回復のお話などもされていたので、ちょっと保守的なようにも思えるのですが。例えばセメントの内需のご前提だとか、4.5%減収でご覧になっている背景をもう少し補足していただけますでしょうか。

**藤井**：セメントにつきましては、内需の前提は 2020 年度並みの 3,900 万トンを前提としております。ですので、セメントそのものとしてはそれほど大きな売上の変動要因ではございませんけれども、生コンの関係について、こちらは中計画値の重要な集計と言いますか、見通しの集計をすると、前年よりは下回るという見通しを立てているというところですよ。

それからあと、ご覧いただきますように電力のところのマイナス要因が入っています。あと、セメントの内需は、先ほど申しましたような 20 年度並みということですが、一方、生産のほうで伊佐のセメント工場にて大規模な定修を本年度は予定しておりますので、そういったところでの数量減といった影響がございます。

**D**：分かりました。一方で、営業利益の分析で、数量差がプラスになっているのはどういった背景ですか。

**藤井**：こちらのプラスにつきましては、石灰石製品、宇部マテの製品の回復が進むと言いますか、20 年度に落ち込んだ部分との比較になりますのでプラス要因になる。

これは、売上のほうでも建材、石灰石製品関連はプラス増収を見込んでおりますので、これとの対比になろうかと思えます。

**D**：なるほど。生コンの数量差のマイナスをオフセットしてプラスになっているということですね。

**藤井**：そういうことでございます。

**D**：分かりました。ありがとうございました。

**藤井**：ありがとうございます。

**司会**：それでは、そろそろお時間近くになりましたので、以上で質疑応答を終了させていただきます。なお、本日お受けできなかったご質問につきましては、明日以降、財務・IR 部よりご連絡をさせていただきますので、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

最後に、宇部興産株式会社、藤井常務、一言ご挨拶をお願いいたします。

**藤井**：本日はどうもありがとうございました。今期もまた不透明感が残るような状況ではございませんけれども、これから需要の回復を確実に捉えていきまして、今の計画達成に努めてまいりたいと思っております。

それから、本日の資料の最後のページに今後の予定をお示ししておりますけれども、5月19日、来週の水曜日、午前10時から当社の泉原社長による経営概況説明会を行います。今年もコロナウイルスの感染拡大防止ということで、昨年同様に電話会議形式になってしまいますけれども、皆様ぜひご参加いただければと思います。

本日はご参加いただきまして、ありがとうございました。以上で、終了させていただきます。

**司会**：以上で、電話会議を終了いたします。ご参加ありがとうございました。

[了]